

病院長就任のごあいさつ

このたび、医療法人社団聖心会 阪本病院の病院長に就任いたしました岡田真樹（おかだまさき）です。歴史ある当院の院長職を拝命し、その責任の重さを痛感するとともに、これまで地域医療を支えてこられた歴代院長をはじめ、関係者の皆様に深く敬意を表します。

当院は昭和42年に阪本整形外科医院として開設されて以来、半世紀以上にわたり、地域に根ざした医療を提供してまいりました。平成11年の阪本病院への組織変更を経て、診療科の拡充や病床の増床、最新医療機器の導入を行い、平成15年には医療法人社団聖心会を設立しました。さらに、令和2年には介護医療院を開設し、医療と介護の連携強化にも取り組んでおります。

本院が位置する東かがわ市では、1965年以降、人口減少が続いており、2025年には約2万7千人、2050年には約1万4千人にまで減少すると予測されています。一方で高齢化率は年々上昇し、市内の多くの地域で40%を超えています。2050年には、65歳以上の方が総人口の半数を占める見込みです。こうした中、医療機関の果たす役割はますます重要になっております。

また、本年は「2025年問題」が深刻化する年でもあります。団塊の世代（1947年～1949年生まれ）が後期高齢者（75歳以上）となり、医療・介護のニーズが急増すると予測されています。社会保障制度や医療・介護体制への負担がさらに増す中、地域医療の持続可能な仕組みづくりが求められています。

こうした状況に対応するため、当院は単に病気を治す場ではなく、患者様一人ひとりの人生に寄り添い、健康を支える場でありたいと考えています。そのために、医療・福祉・介護の連携を一層強化し、地域全体で支え合う仕組みを整えてまいります。さらに、在宅医療や訪問リハビリの充実、予防医療の推進にも力を入れ、住み慣れた地域で安心して暮らせる環境づくりを進めてまいります。

高齢の患者様が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、急性期・回復期・慢性期・介護医療・在宅医療・リハビリテーションを含む総合的な医療体制を強化します。また、地域の医療・福祉機関との連携を深め、切れ目のない包括的な医療の提供を目指します。

職員一人ひとりが誇りとやりがいを持てる環境を整えることも、質の高い医療の提供には欠かせません。働きやすい職場環境を整備し、専門性を高め続けられる場を提供することで、患者様にとってより安心できる医療体制を築いてまいります。

時代が変わっても、医療の本質は「人と人とのつながり」にあります。当院は、これからも皆様にとって「頼れる存在」であり続けるため、全力を尽くしてまいります。今後ともご支援・ご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

当院の理念である「全人医療」を実践し、患者様一人ひとりの身体だけでなく心にも寄り添う医療を提供するとともに、職員が働きやすく、誇りを持てる職場環境の整備にも努めてまいります。これからも地域の皆様とともに歩み、安心して暮らせる医療体制の構築に尽力

してまいりますので、引き続きご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

医療法人社団聖心会 阪本病院
病院長 岡田 真樹